

灯台

軍事費突出の意味は

2021年度の国家予算が閣議決定されました。軍事費（防衛費）予算は5兆3000億円を上回り膨張の1途です。毎年思うことは人口比で一人当たり約5万円の負担になります。4人家族で年間20万円になります。おそらくこのような過大な負担を余り意識している人は少ないと思っています。その一方で社会保障費の負担増を自公政権が目論んでいます。現在、コロナ感染の拡大で国民一人ひとりが感染予防で神経をすり減らす毎日だといふのに、よくも軍事費の増額、拡大を閣議決定したのです。軍事費が何に費やされてきたのでしょうか？

防衛と言いつながら、人殺しの兵器、つまり軍事的装備の調達です。人殺しのため、国民は4人家族で年間20万円の負担を強いられるのです。現在、政治の役割はコロ

ナ感染予防に全力をあげるべきで、防衛費イコール軍事費を減らし、国民の生活と健康を守ることに予算を振り向けることです。

安倍もそうでしたが、国家の借金を削減すると言うなら、菅首相は軍事費の削減を進めることです。おそらく多くの国民は1945年8月15日の敗戦以降の国家が如何に国民の生命を軽くみてきたかがわかります。兵隊には軍人恩給で報いましたが、米軍の空襲で亡くなった無辜の国民には何の保障もしてこなかったのです。このように考えると人殺しや戦争への準備と軍事産業、米軍の駐留による思いやり予算など国民の生活や生命にあまり意味をなさない防衛費は無用だと私は考えます。

労働大学企画編集委員 高井 豊治

